



ありんこ便り

由木かたくりの会の家族会「ありの会」会報

2017年
12月4日発行
通巻第30号

「ありの会」へのご意見・ご要望は 〒192-0355 八王子市堀之内1236-8 社会福祉法人由木かたくりの会付「ありんこポスト」 までに郵送するか、ポストに直接投函して下さい。Eメールで送る場合のアドレスは《 arinko_renraku@yahoo.co.jp 》へ。ホームページは《 http://space.geocities.jp/arinko_renraku 》です。

「フェスタかたかご」が開催されました

11月11日(土)に第7回フェスタかたかごが開催されました。心配された天気にも恵まれ、「かたくり太鼓」の力強い演奏で幕を開けました。

今年も地域の方や家族の方に大勢お越し頂きました、利用者の皆さんも朝から準備や接客と忙しい一日でした。

それでも休憩時間に待ちきれない様子でフランクフルトや焼きそばを買いに来てくれた方、

ラムネの栓開けに挑戦した方、皆さん買い物やゲームを楽しみ、にぎやかで楽しい一日となりました。

ありの会は、今年も焼きそば、フランクフルト、飲み物、釣りゲームバザーを担当しました。焼きそばとフランクフルトは今年も200食を完売することができました。バザーやゲームにもたくさんの方に足を運んで頂きました。売り上げについては下記のとおりご報告いたします。



当日のお手伝い、バザー品の提供など多くの会員の皆さまにご協力をいただきました。本当にありがとうございました。来年もさらに楽しくたくさんの方にお越しいただけるフェスタにしていきたいと思います。ご意見やご要望がございましたら、ありんこポストへお寄せください。

最後になりましたが、実行委員の職員の皆さま、後援会の皆さま、ありの会役員・当日お手伝いの皆さま、事前の準備含め朝早くから後片付けまでお疲れ様でした。来年も楽しいフェスタにするため、今後も職員・利用者・家族みんなで力を合わせて頑張りましょう！！



《 フェスタ会計報告 》

売り上げ合計		72,990円
内訳	食品、飲み物	36,350円
	ゲーム	2,600円
	バザー	34,040円
仕入れ		60,756円
純利益		12,234円

バザーの残りは、近隣及びリサイクルショップ「ハートリボン」(日野市就労継続支援 B 型事業所 <http://heartribbon.thebase.in/>)へご提供させていただきました。皆様のご協力ありがとうございました。

ハートリボンの紹介は下記参照
<http://www.choi2.jp/detail/shop/2316>

クローバーダンスパフォーマンスショーが 開催されました

～障がいのある人もない人もみんなでつながろう～

去る6月25日日曜日、後援会の企画により『クローバーダンスパフォーマンスショー』が多摩市関戸公民館にて開催されました。クローバーは子供から大人までの大規模なダンスグループです。当日は総勢68名のダンサーの皆様の、パワフルかつ優雅で、皆の心が明るくなる楽しいパフォーマンスと、ジュニア渚さんによるプロのマジックショーを堪能しました。ありの会では、かたくりの皆さんの笑顔あふれるスライドを作成し、その生活をお客様にご紹介させていただきました。



かたくりの利用者の皆さんもノリノリで参加されている方、ダンスに見とれている方、と様々な表情で楽しんでおられたようでした。今回、会場の確保から始まり公演終了後までクローバーさんと、そのメンバーでもいらっしゃる、元ありの会会員米山さんには大変お世話になりました。そして小川原事務局長をはじめ後援会の皆様、素晴らしい企画を実現していただき改めて感謝申し上げます。

当日お越し下さった観客の皆様も含めて皆でつくりあげたホールの熱気あふれる空間は、「障がいのある人もない人もみんなでつながろう」という言葉そのものでした。2017年のかたくりの会にとって素晴らしい思い出となったのではないのでしょうか。

ご就職おめでとうございます

由木工房 就労支援に在籍していました内山直哉さんが、株式会社 ビジネスプラスにご就職され、ありの会よりお祝いをお渡ししました。お礼状をいただきましたのでご紹介します。この後、トライアル期間を無事にクリアされ毎日ががんばっておられます。

8月30日には、法人企画の会社見学会で10名の利用者が、内山さんの職場を見学させていただきました。フェスタかたかごにもきて下さり、元気な姿をみせてくれました。また、お父様にはありの会会長として大変お世話になりました。今後のご活躍を心よりお祈りし、応援していきたいと思えます。



ありの会の比呂様へ
かたくり卒業の時にはお祝とお餞別とメッセージを
いただき、有難うございました。
就職して一週間が経ち、会社や仕事にもたんだんと
慣れて来ました。一番心配していた早起きも身に付
いて来ました。
まずは3ヶ月間のトライアルをクリアする事を目標に
頑張りたいと思っています。
暑い日が続きますが比呂様どうぞお元気で過ごして下さい。
まずはお礼と近況をご報告いたします。
平成29年7月8日
内山直哉

写真は右より津田ありの会会長、荻野副会長、内山さん、三島副会長です。

勤続 10 年のお祝い

勤続 10 年おめでとうございます。これからもお元気で活躍されることを祈っております。

○ かたくりの家

W Sさま	生活介護
S Aさま	B型
O Tさま	B型
O Aさま	B型

○ 由木工房

S Hさま	B型
-------	----

○ ぶらさ

S Mさま
S Sさま
N Yさま

※ 対象者はH19年4月2日～H21年3月31日までの間に入会された方です。お名前が挙がっていない方はお手数ですがありの会のメールアドレス、またはありんこポストへご連絡下さい。

成人のお祝い

ご成人おめでとうございます。いよいよ大人の仲間入りです。皆様のご活躍とともに、ご家族の皆様のご多幸をお祈りいたします。

○ かたくりの家

S Eさま	B型
N Kさま	B型

○ 由木工房

W Tさま	喫茶
-------	----

グループホームの管理者に脇坂浩一さまが就任されました

～ ご挨拶と自己紹介の記事を書いていたいただきました ～

10月1日より、グループホームかたくりの管理者に着任しました、脇坂浩一です。この原稿を書いている時点で、着任して1ヶ月半が過ぎようとしています、まだまだ分からないことだらけで日々勉強です。そんな中でも、色んな方が温かく声を掛けて下さるので、本当にありがたく思っております。社会福祉法人けやきの杜から2年半という限られた期間での出向という形ではありますが、利用者の方たちが地域に根差して暮らしていけるように努めて参りますので宜しくお願い致します。

さて、そんな私が利用者支援の現場において心掛けていることは、その時その時で利用者の方たちと関わっている「自分」というものを見直すということです。自分の関わり方が相手にどのような影響を及ぼしているのか、自分が利用者の立場だったらどう思うだろうか、と振り返る意識を忘れないようにしていきたいと思っています。また、どうしても日々の業務に流されてしまいがちですが、果たしてこれで良いのか、



もっと良い方法があるのか等、疑問を持つことが大事だと思っています。今は、由木かたくりの会に来たばかりなので、当然疑問に思うことも多いですが（悪い意味ではなく）、そのことを忘れないようにしていきたいですし、発信していきたいとも思っています。それが、外部から来た私の役割だと考えています。抽象的な話になってしまいましたが、私自身は常に自然体で皆さんと関わっていきたくて思っておりますので、皆さまもお気軽に声を掛けて頂けたらありがたいです。宜しくお願いします。

おっさん牧場の鈴木亨さん「情報発信することが大事。継続的な発信で良い出会いに巡り会える」

～ インタビュー記事の転載 ～

かたくりの会に対し多大なご支援をいただいている鈴木様からの寄稿です。法人では本年度より新たに「運営協議会」を設置し利用者家族・地域の方々の意見が反映される様な体制が出来ました。鈴木様はこの運営協議会で地域からの提言をしていただきます。尚この記事は、「好齢ビジネスパートナーズ (<http://www.korei-bp.com/>)」からの転載です。オリジナルの記事は下記にあります。

http://jin.korei-bp.com/archives/746?fb_action_ids=588931497879779&fb_action_types=og.comments

転載にあたって紙面の都合でレイアウトなどは変更しています。

鈴木亨(すずきとおる)さん

八王子市在住。堀之内地域では“牧場のおっさん”というニックネームで呼ばれる。都内に残る酪農地域「おっさん牧場」で牛と生活しながら多摩ニュータウンに反対し、地権者が自然保護活動をしていることで注目を集める。八王子市の違法残土への取り組みや東京都で初の民地での里山保全地域に指定されるなどの自然保護の動きに貢献。5年前、病気をきっかけに牛との生活を断念し、「社会福祉法人由木かたくりの会」を設立、多摩の若手農家が中心の株式会社フィオ(FIO)へ土地を提供、「一般社団法人八王子協同エネルギー」の市民発電所第一号機として30kwのソーラーパネルを牧場内に設置するなど土地をオープンにすることで人が集まる場を作っている。

WEB サイト: [牧場のおっさん](#)

個人ブログ : [多摩丘陵の牧場のおっさんの環境福祉](#)

八王子市堀之内の酪農地域「おっさん牧場」を経営する鈴木亨さん、通称“牧場のおっさん”に、農業・福祉・環境を核とした多岐にわたるまちづくりへの関わりと、これからやりたいことについてざっくばらんにお話いただきました。



八王子市堀之内で「おっさん牧場」を経営する 鈴木亨さん（おっさん）

—鈴木さんのまちづくりとの関わりを教えてください

親の代からまちづくりと関わり、農業と福祉で何かできると思っていた

鈴木亨(以下おっさん) 家で牧場をやりながら、12年前に亡くなった父親から引き継ぎ、まちづくりには関わっていた。農業と福祉ってなにか一緒にやると面白いんじゃないかっていうね。

牧場以外の活動では、多摩ニュータウンの里山を残す自然保護活動や社会福祉法人を作ったり、三宅島の噴火の際の避難者と農場や堀之内に里山公園を作ったりしてましたよ。

— (1つずつお話していただきました)

「社会福祉法人由木かたくりの会」を設立

おっさん 父親が亡くなった時に、父がやっていた福祉施設を社会福祉法人にしようと動きだしたんだ。「あなたのように経験のない農家の方に社会福祉法人が作れるわけがない」と、周りの方にはかなり言われたんだよね。設立までは色々な事件もあったんだけど、それまでのまちづくりの活動で出会った色々な方に助けをもらい社会福祉法人を設立することができたんだ。設立したのは「社会福祉法人由木かたくりの会」という名前なんだけど、八王子市の福祉施設の中でもトップクラスだと思ってるね。

収入という意味では、社会福祉法人から地代をいただくことで食べていけるようになったんだ。この安定収入があるから今のわたしがあるんだと思うよ。

農業、環境、福祉がぼくの源泉

おっさん 現実的には障害者が企業で働ける可能性は低いと思う。なので、ぼくやまちの人と一緒に農業ができて生活していればこんないいことはないと思うんだ。テレビのニュースなどでヤギが除草するのでニュースになったりしているがそんなのは単純で知恵がないなと思うよ。なんで福祉施設といっしょにやって福祉に絡めた仕事にしていけないんだろうなと思う。あとさ、地域の子供達が遊べる場がある景観は素晴らしいよ。ただの芝生があるだけじゃなく動物と人と子供がいて関わっている状態が本当のふるさとづくり、まちづくりになるのではないかと思っています、そこにお金が生まれるか生まれないかは、わからないけどやるべきことだと思うんだ。

福祉施設の人がもっとまちに出る必要がある

おっさん 外に出たほうがよいのではと提案しているんだけど、なかなかまちに出ていないんだ。かたくりの会の利用者とみんなで野菜を作っているんだけど、作った野菜を施設の中でしか売っていないので外で集まる場所を自分たちで作って野菜の即売をしたりと色々な取り組みをしていけばいいと思う。今度さ、近所の公園で野菜を売る場を作ろうと動いている。民間は公園に入れにくいけど福祉施設はOKなのでライバルがいない。この場を使って野菜を販売することがうまく定着すれば工賃を増やす形が作れるんじゃないかと思ってやろうとしているんだ。これは期待しているよ。



6ヘクタールの公園「堀之内寺沢里山公園」の設立に尽力

おっさん 堀之内寺沢里山公園は多摩ニュータウン19住区の近隣公園としてできた。隣接してる酪農集落と住宅地との合い間にあり、酪農家との話し合いの中で 農業公園構想という提案の中から生まれた。計画を進める中で農業とニュータウンの接点を求める中でこの公園ができた。もともとある公園と結びつけて、畑や炭焼き、田んぼがあり、もともと近隣公園は集落だった。そこには茅葺の家があったので、それを残して欲しいと要望していたが市の許可が出なかった。計画を進めるURとの話し合いで里山公園の管理棟ができることが決まり、そこで里山のコミュニティの場になった。里山公園はアダプト制度で地域の人たちが管理している。

参考：おっさんが運営するWEBサイトから (<http://www3.tnt-net.co.jp/ossan/horinouti-satoyama/park.htm>)

動物と子供が触れ合う場所づくり

おっさん 牛を飼っていて乳搾りで食べている酪農家は、伝染病が怖いから外部の人たちを入れたくないと思っている。けどそうじゃなく、福祉施設の方や今の世代のお母さんたちは子供に土に触れ合う機会を作りたいと思っている方が多い。そういうこともあって、田植えをしたり、どろんこで遊ぶイベントをやったりしてるんだ。主に京王線沿線の子供が来て遊んでるよ。そういう地域のつながりは大事だと思う。



堀之内寺沢里山公園で田植え体験をする子供たち

三宅島の噴火時の避難者と「三宅島げんき農場」を立ち上げる

おっさん 他には、三宅島が噴火した際に東京の八王子近辺に避難してきた方と三宅島でなくこちらでも農場を持ちたいという声から「三宅島げんき農場」というのをつくるお手伝いをしていた。

まず、都立大学の先生と都立大学のサーバを使って、企業の寄付による予算で三宅島の避難者にパソコンを配った。パソコンが使えなかった方へは教えに行ったりしてたよ。ホームページやメーリングリストを作ったり、パソコンが使えない方へは多摩ニュータウンの中にある小学校の先生に協力してもらって、ペーパーで配ったりすることで島民の情報伝達のお手伝いをしていたんだ。そこで村役場の福祉係さんと仲良くなった。いつ帰れるかわからない三宅島の人の主な収入は新宿のパチンコ屋の掃除が多かった。三宅島の人と話していたとき、「こっちでも農業やれば良いな」という声があったんだ。

そこで、三宅島役場の方と東京都職員とわたして農地となる場所を探していた。すると協力者が現れ、八王子インターの横に未利用地が畑のまま残っているということでそこを使えと言われたんだ。うまく国の予算を使わせてもらい、その未利用地の畑で立ち上げたのが「三宅島げんき農場」。

三宅島げんき農場：<http://www.tokyo-np.co.jp/saigai/miyake/miya2001042401.html>

多摩ニュータウンの構想に反対していた

おっさん 入院する前から堀之内の自然保護に立ち向かっていた。地権者が自然保護をすることは滅多にないのほどういことかという、自然保護イコール土地を売らないこと。自然保護をするということは土地が売れなくなってしまうということだから、地元の地権者たちの理解を得られるということは滅多にない。だから、地権者が自然保護に立ち向かっているケースは少数派なんだ。

この頃、土地をお墓にするという流れがあった。平米500円から1000円だったものが造成費とかすぐに補えてしまうからね。残土問題は地権者から権利を買う。誰だってお金が欲しいはずだから売っちゃうよね。他の地権者の方は土地を売ったりしていたが、僕は土地を売らず多摩ニュータウンの構想に反対したよ。この頃には、地権者が自然保護をしているなんてケースはあまりないのでぼくが注目されるようになってしまった。

残土というのは、宅地造成法は東京都が許可権限を持っており東京都と八王子市との間でなかなか話が進まなかったけど、ずっと現場の声を発信して関係者と議論していたおかげか、八王子市で残土条例という原状回復命令が八王子市で初めて発令された。原状が回復できなかったとしてもさらに悪化するのを止めるという条例だね。

5年前に病気になり8ヶ月の入院生活。借金が4000万円になりもう破産だと思ったこともある

おっさん 5年前に病気になって入院していた。病名は大腸がんと原発性マクログロブリン血症という病気で100万人に5~6人くらいの血液の病気になってしまい、8ヶ月入院していたんだ。2008年9月までは牧場で乳牛をやっていたけど、今は牛はいない。乳牛をやめたのは病気が免疫の病気というのもあってドクターストップがかかったから辞めざるを得なかったんだ。

病院でリーマン・ショックのニュースを見たときはもう終わりだなと思ったよ。この頃、借金が最大で4000万円になりさすがに破産だなど(笑)。ただ、里山を壊す動きでなく守っていくような動きに変わってきたことをみると、地域のデザインをしてきたんだなあと振り返っていたよ。

入院しても情報の受発信は怠らなかった。自然を残す動きに変わっていった

おっさん 入院中でもベッドのテーブルにパソコンを置き、ホームページやmixiなどを使い情報の受発信を積極的に行ったよ。病院を抜け出して自然保護の活動に行ったりしてた。それはインターネットがあるから情報を得られた。

そして、自然を残そうという動きになっていた。

東京都の里山保全のことも病院から発信したよ。そのときは他にやる人がいないから東京都環境局の担当者と必要があれば病院を抜けだして議論したりもしていたんだ(笑)

退院後、すぐに東京都の民地で初めての里山保全地域に指定される。そして借金も全額返済

おっさん 敷地面積は7ヘクタールの土地が、東京都の民地で初めて里山保全地域に指定されると発表された。その発表はちょうど、病院から退院するタイミングで発表されたんだ。

参考：東京都里山保全地域指定 (<http://www.metro.tokyo.jp/INET/OSHIRASE/2009/03/20j3n100.htm>)

僕が東京都の自然保護条例をうまく理解していたのが大きかった。なぜみんなが賛同してくれたのかということ、他の方に土地を売るより東京都のほうが高く買ってくれたからという理由が大きいと思う。病気、相続のある人から優先して買ってくれるというもので、一番に売ることができて4000万円の借金を全部返すことができた。

病気でわかったことがある。それは、「障害はあるべき。苦難がないと人間は育たない」ということ。

土地をオープンにすることで新しい広がり生まれる。地域の中である程度生活が成り立つことが最高にいい。

おっさん 日本の土地は個人で所有するというようになってるが、里山みたいに色んな人が関わることで維持できるようになっていけばいいと思う。大抵の人は土地があると手放さない。そうじゃなくいろんな人が関わればいろんな人が潤う。それで生計が成り立てばいい。開くことで自分だけの可能性だけでなくいろんな関わり方の中でみんなが暮らせればいいと。身近に来られる距離の関わりが大事だと思う。遠くなればなるほどコストがかかる。この地域の中である程度生活が成り立つことが最高なはずだよ。

今では、土地をオープンにしているのでぼくのところに来て話して一緒にできそうな人いろいろやってるよ。例え

ば、多摩ニュータウンにヤギ牧場を作りたいという株式会社 FIO の船木くんがヤギ牧場や農業用の土地として利用してる。今では彼の思いに共感した若いメンバーが12人もいるんだ。



世代問わず、人が集まる場になっている「おっさん牧場」

おっさん 最近では、一般社団法人八王子協同エネルギーが市民発電所を作るということで場所を利用してます。人がいっぱい来て野菜が売れて、さらに自然エネルギーを作れるならいいなと思って協力させてもらってるよ。



おっさん牧場にソーラーパネルが設置される

いろんな方と出会い、協力することで未来が見える

おっさん 自分以外を蹴散らしたりよそ者扱するような田舎者が多くて嫌いだが、共に歩むっていう人は好きで応援したい。たとえば、地域に多摩ニュータウン学会っていうのがあるけど、ここを構成するのは移り住んだ人だけで土地の人は行かない。でも僕は積極的に行くんだ。出る杭を潰すんじゃなく、そういう人たちと協力していくことで未来が見えてくるんじゃないかと思っているから。

—いま活動している中で課題はありますか

おっさん 課題はお金がないってことくらい(笑)。でもさ、金がないって大事なこと。金がないから知恵を絞れる。あとは、来る者拒まず否定しないで受け入れるようにしてる。人は否定しないけど、いろんな生き方を知ること、頑張り方、面白い人種がいるんだというだけで励みになる。世の中って面白いなってね。課題ってないんだ、重く考え

ないようにしてるから。やっていけることをやっていけばいいじゃないと思ってるよ。

—活動していく中で大事にしていることを教えてください

「書く」ことが大事。情報発信し続けたことで“今”があると思う

おっさん “牧場のおっさん”のネーミングってラジオ局に送るときのペンネームだったんだ。エフエム多摩放送というコミュニティ放送のラジオ局（現在は閉局している）があって、15年間FAXとかパソコンを使ってメッセージを送っていた。今は牧場のおっさんから“牧場の”を取って“おっさんさん”と呼ぶ人もいるね。ラジオ以外にも里山保全関連のメーリングリストに1万回くらいは投稿したり、ホームページやmixiで発信したりしていた。

僕の中で「書く」ということは大事だったんだ。書くためには頭の中で整理しないと書けないから、決まった時間に整理する作業するのって大事だなって。発信することがない時も、とにかく「〇〇やりたい」ということを情報発信することで協力者が現れていた。何かしたいと言い続けると、誰か案内してくれる人が現れるんだ。書き続けたことでいい方と出会うことができたよ。たださ、最近Facebookで投稿する方もいるけど、何食べたよ、どこ行ったよ、とかそういうのじゃなくて「意味のある情報発信」をしていかないと良い出会いはないと思うな。

—今後の構想があれば教えてください

将来、ほぼすべての暮らしがその単位内で補われる「おっさんビレッジ」をつくりたい

おっさん 私欲的なつもりはないけど「おっさんビレッジ」っていうのを作りたいと思ってるよ。おっさんビレッジ、開かれたまちってこと。開いていかなければ顧客も得られないと思う。「おっさんビレッジ」の中でほぼすべての暮らしが補われるようにしたい。ゼロ・エミッションの考え方をベースにして、ある単位の中ですべての暮らしが補われることを目指したいね。それができないから日本がおかしくなっていると思う。この単位の中で排出したものがこの単位の中ですべて循環すれば苦労することはないでしょ。たとえば、大きなまちが抱えてるごみ処理の問題では、個々が処理できないから現実的にはゴミ焼却所について費用がかかるでしょ、だけど生ごみを堆肥化して農業などで使うとか個々が処理できる状態ができれば生き方として一番素晴らしいと思うね。ぼくが経験してきたということもあるんだけど、あまり力を持ちすぎると余計なことを考え出すからそれはいらない。お互いが楽しくできればいいと思うんだ。

—おっさん、ありがとうございました！

（インタビュー・文： KOKEGUCHI 編集： HISAKO）

もちつき会のお知らせ

今年のもちつき会は、親睦を兼ねてご家族の参加をお待ちしております。皆で1年を振り返り、来年の希望を新たにして、かたくりの会を盛り上げていきましょう！

平成29年 12月15日（金）14:00～15:30
由木工房 ログハウス前にて（雨天時 レストラン内）
家族分の磯部だんごの代金150円は当日集めます。



詳細は先日配布したお知らせをご覧ください。（連絡先：三島 090-5828-0370）

給食費について

5月の法人事業所説明会の席上、給食費について質問があり、その後値段やメニュー、質について検討して欲しいとの投書があり、利用者給食費500円の妥当性及び値下げの可能性について、法人と話し合いを進めています。

法人より

- ① レストラン全体の原価構成の提示
- ② 食事提供体制加算（食事提供時にかかる経費に対して、人件費相当分の加算を付けることで、利用者負担額を原材料費のみとする）の申請は、H30年までの時限立法であり、今後減額、ないしは廃止の可能性もあるため、今回は見送りたい。従って加算を原資とした値下げは現時点では難しい。引き続き値下げないしは質の向上を目指したい。

との回答を得ています。引き続き

- ① 単価500円の原価構成がどうなっているのか
- ② 量と質（栄養バランス、カロリー、味覚）の見直し
- ③ 来年4月を目途に値下げの可能性

につき検討を進めて参ります。

なお11月6日、役員7人による試食会を実施し、アンケート結果につき概略をご報告します。

<献立について>（当日は和食献立；赤魚の醤油のバター焼き、高菜豆腐、ホウレンソウの胡麻和え、バナナ、みそ汁）ヘルシーで薄味、バランスがとれている。

<量について> 野菜がたくさんとれる、副菜が多い、運動量に対して若干多いか。

<味付けについて> 全体的に薄味でよい、健康的な味付けの印象。

<見た目、食感（温度、大きさ、固さなど）について> 適温、見た目は地味で、いろどりの工夫をして欲しい、

<その他>

- ① 献立を写真で紹介して欲しい、
- ② 500円は若干高めか、原価を教えて欲しい、
- ③ 学校の給食と比較するとこの献立で500円は妥当か。
- ④ 1か月の献立について適当と思う。レストランの食事は味が濃いが、給食は違った。
- ⑤ 由木工房の食品加工の利用者の働きぶりも見ることができた。慌ただしい中、自分の仕事をきちんとこなしていた。
- ⑥ 今後可能であれば定期的に家族への試食会を検討して欲しい。

引き続き試食会は継続する予定ですので、皆様で参加の希望があれば、是非ご連絡下さい。



お知らせ

◎ 入退会

利用者の入会 S Eさん かたくりの家 生活介護 入会 6月19日付

利用者の退会 U Nさん 由木工房 就労支援 退会 6月30日付

H Sさん 由木工房 喫茶 退会 8月31日付

◎ おくやみ

会員 白井康雄様 由木工房 U Mさんのお父様

設立当初より長きにわたるかたくりの会、ありの会へのご協力に心より感謝を申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈り致します。

◎ 学習会

今年度の学習会は、日頃お世話になっている「けやきの杜」の施設及びグループホームを見学させていただく予定です。時期は、来年の1月下旬から2月中旬になると思います。調整中ですが、詳細が決まり次第お知らせいたします。

◎ ご意見・ご要望・感想をお聞かせ下さい

「ありんこ便り」掲載記事に対する感想やご意見、役立つ情報、今後載せてほしいテーマのご要望、そして皆様からのご寄稿を募集します。

次号は3月発行予定です。タイトル下のメールアドレス、ありんこポストで受け付けます。



今年も早12月になりました。楽しいクリスマスや、
年末年始と慌ただしい行事が続きます。
寒い日も続きますので、体調にお気をつけてお過ごし下さい。